

<市町村探訪>

ワークショップによるまちづくり

人にやさしいまちづくり研究会 (大洗町)

本格的な高齢社会に向けて

大洗町は、茨城県の太平洋岸のほぼ中央にある人口約2万人の町です。太平洋に面し、穏やかな気候・風土の中で、観光と漁業の町として歴史を築いてきました。

大洗港や、マリントワー、大洗磯前神社といった自然に恵まれた名所のほか、最近では、大洗わくわく科学館や、アクアワールド茨城県大洗水族館など新たな賑わいの拠点も生まれています。

しかしその一方で、大洗町は、65歳以上の高齢人口比率が、全国平均を上回り21パーセントを超え、核家族化も進行しています。

また、夏以外のシーズンに大洗町を訪れる宿泊観光客の40%以上が61歳以上の高齢者であるというデータもあり、観光客の減少も課題になってきております。

このような状況のもと、大洗町ではまちづくりをバリアフリーの観点から進め、地域の活性化と観光振興に役立てるとともに、快適な生活環境整備を図るため、平成13年9月に「人にやさしいまちづくり研究会」を設置しました。



真摯な議論が交わされる部会の様子

環境点検とワークショップ

「人にやさしいまちづくり研究会」は、茨城大学地域総合研究所 斎藤 義則教授を委員長に、商店街部会と旅館街部会に分かれ、活動を続けてきました。

平成13年9月17日には地元の商店経営者や旅館関係者等による部会委員と茨城大学地域総合研究所のスタッフが一緒にまちを歩いてバリアフリーの環境点検を行いました。

環境点検では「道路の両わきに車や物がおかれている」、「道路と建物に段差がある」、「車椅子が通行しにくい」等の問題点が挙げられました。

それらを踏まえて旅館街ワークショップでは、ごみ収集、地区内公共駐車場、路上駐車、看板・商品などの歩道への放置と客の呼び込み、高齢者・障害者に対するイベント、神社の活用、海岸遊歩道の修復・活用、景観、PR、案内及びホスピタリティの向上の10分野について話し合いが行われました。



ワークショップの様様子

アクションプランカードを選択しながらまちの具体的なシナリオづくりを検討してゆく



<歩道・車道> 歩行者のための障害物除去、段差解消
 ・干物が盛んでいて、外から来た人にとっては蒸し暑い、スペースを圧迫してしまっている。
 ・電柱が歩道の邪魔になっている。まちの方では地中化を既に進めかけている。
 ・客の呼び込みはめったにない。
 ・歩道が狭いところを平らにするか、段差を解消する可能性がある。
 ・車対応なので、車椅子の人も歩行者が歩きやすいようにしないと根本的に難しい。
 ・車道は歩行者が通るくらいにし、歩道を広くする。その場合に車も歩行者も安心して通れるようにできる。
 ・将来的に歩行者の中心の旅館街になれば最高。
 ・安心してゆっくりと歩いて店を見て回れるようになる。
 ・行政で歩道のネットワークを考えておいたほうが良い(現在では考えていない)
 ・路上駐車が、歩道をふさいでいる。

宮下旅館街



物が店の前に置いてあり、歩道が使えない。
 道がなくなる、歩道が切れているところはつなげるしかない
 ゴミ置き場になっているからゴミを捨てる。ゴミ捨て場になっちゃう。
 歩道として繋がれば、道で繋がっている。
 小道がある、歩道に出る道が非常に分りにくい。

旗が置いてあり邪魔
 ・松葉で歩きにくい。
 ・大洗は自然と共存しているので、山の影響を受けてしまう。

<ゴミ> 各旅館から出るゴミをどう処理するか？
 ・収集の時間が分かれれば、各旅館ごとで時間に合わせて出せ、短時間だけ置くことが可能。
 ・どこかにまとめて置く、すごいことになる。
 ・ゴミの量は増えているので、ゴミの処理は難しい。
 ・ゴミを歩道で捨てることはできない。
 ・ゴミを歩道でなく、敷地内に置いておく、しまっていると思われて回収してくれない。
 ・各旅館それぞれがゴミ処理場に直接搬入すれば、その方がベターではないか？(行政の立場から)
 ・現在、町が旅館等のゴミを収集してもらうなどの措置を採らねば、金銭的な問題が出てくる。



・干物が道を塞いでいるが、表紙などもある。
 ・臭いなどがあったが、歩道に置いてある看板も(町では歩道に干物・看板等を置かないというお願いはしていない)
 ・雑草で道が塞がれている

<景観> 外観に統一感を与える
 ・潮風で建物がやられてしまっている。景観を悪くしている。
 ・旅館や飲食店の統一感がない。
 ・海岸がゴミで散らかっていて、すごい汚い。
 ・干物やゴミを捨ててゴミが歩道に置いてある。見えない。
 ・各旅館のフェンスがバラバラで、きれいに統一するとかなり景観が良くなるのでは？
 ・干物は景観としては大洗らしくてすごく好感が持てる。

眺め良好
 ・大洗磯前神社の魅力が外に伝っていない。観光利用としても、どうアプローチしていくかが大事。
 ・磯前神社の鳥居はみんなが見て「おっすい！」と言っている。見物でありびっくりするところ。
 ・品性の高い神社と海の雰囲気もあって、どこか特別なものを感ずる。人に対する優しさみたいなものもその高さにつながる。

ごみ、看板が歩道に歩道がゴミ置き場になっている。
 側溝の蓋、車椅子の車輪が挟まる可能性がある。

汚い
 ・街灯がほとんどなく、夜は真っ暗

段差がある
 ・公共電話に高い段差があり、車椅子の方だけでなく、高齢者も使いづらい。

<凡例>
 ●:「ここは困る、改善したい」等の問題点
 ○:「ここはいいな、残したい」等の地域の宝物

歩道に段差がある
 ・電柱が長靴止マイナス
 ・スロープ

電柱が歩道の傾斜
 海岸へのアプローチ
 ・観光客にとって表示案内が足りない

フラッシュバックの可能性がある。
 ・海岸側を歩行者のメインストリートにする。

スロープ

景色の良いところにベンチが欲しい。
 ・ちょっとした憩いの場ができる。

<路上駐車・駐車場> 車中心社会の問題点
 ・路上駐車が、歩道にも乗り上げている。
 ・駐車スペースが少ないので(土地が足りない)、従業員が停めている場合がある。
 ・客も通勤車も車が多すぎる。
 ・週末、忘年会の時期は車で歩道が埋まる。
 ・車椅子の人が車を停めて降りるという設備はない。
 ・このまちには社会に馴染んでいるようにはできていない(地形、景観に無関係な気がする)
 ・駐車場をもっと広いところを作ってくれれば良い。
 ・県の公園整備計画で、既存の駐車場から海岸に遊歩道を作るという計画が立てられている。
 ・海岸側があるのに駐車増ばかりというのはもったいない。
 ・旅館から少くとも観光客と契約して、車を置かせてもらうことはできないのか？
 ・駐車場は無料で誰が停めても良いが、旅館に専用に常時使用されるのはあまり良くない。
 ・観光客は少くとも観光客で混むので、従業員の車で占められると困る。
 ・忘年会の時期は夜間なので停めても大丈夫。
 ・客は車を速くに乗るのは不安。

・歩道として繋がれば、道で繋がっている。
 ・小道がある、歩道に出る道が非常に分りにくい。

フラッシュバックの可能性がある。
 ・海岸側を歩行者のメインストリートにする。

<海岸・遊歩道> 地域資源を活かす
 ・コンクリートの打ちっぱなしの堤防が邪魔で、歩道などが整備されていないのが残念
 ・旅館と遊歩道の境界に段差、遊歩道から浜に出るところに階段がある。
 ・10年前の旅館街の報告書の中にはプロムナードという位置付けされているが、具体的に事業計画にまで至っていない。
 ・遊歩道と旅館のプライベートビーチみたいな感じでお茶を飲んだり、宿泊客でなくても利用できる。
 ・モダンな感じで、干物を焼いて食べられるようにしたい。
 ・潮風に吹かれて、コーヒーを飲みたい。
 ・遊歩道をぜひ、ガイドブックなどに載せてほしい。
 ・海岸の旅館の車庫の使い方を遊歩道との関係を考えて、活用すると単なる観光地ではなく、いろいろな良質な場所になるのでは？
 ・遊歩道と旅館との関係を重視して整備する場合は逆にマイナス意見も出された。(例：お風呂が覆われてしまう)
 ・旅館街の方が共通認識として遊歩道をどう活かしていくかが確認されれば、様々なことが行われると思う。
 ・岩場の鳥居のところは景色が良くても段差が大きい、ゴミが散らかっている。
 ・もつとつと活かしたい。
 ・海の仕事をしている人たちを大切にしたい。
 ・素揚げで食材を提供したりするのは、客としてはすごく楽しみで、そんな中で食事すると豊かな気持ちになれる。

商店街・旅館街に分かれて環境点検マップが作成された。バリアフリーの観点からは歩道の段差や傾斜、電柱や看板による歩道の不自由、側溝のフタの破損等が指摘された。
 上は「宮下旅館街」のマップ。

また、商店街部会では 歩行者空間確保、 障害者・高齢者との交流、 商店街のにぎわい回復の3分野について、課題の整理と意見交換がなされました。

この研究会の大きな特色は、住民と行政、それから専門機関として茨城大学の地域総合研究所・都市計画研究室が入り、部会のメンバーによる徹底的なワークショップ形式をとっていることです。

課題の整理からあるべき目標、それに向けての解決策の検討まで、すべてが行政にあらかじめ用意されているシナリオに沿ってではなく部会メンバーの話し合いの中で進められます。

例えば、商店街部会では障害者・高齢者・子供に対してやさしいまちにすることが商店の発展にどのようにつながっていくのかが共通の認識として捉えられるようになりました。

11月27日から30日にかけては「大洗町高齢者生活実態アンケート調査」を729名の高齢者に対して行い、生活の形態や関心事、商店街との関わり方を調べました。

真の「人にやさしいまちづくり」の実現に向けて

「人にやさしいまちづくり」とは、歩行者空間の確保や、段差の解消などハードなバリアフリーと、高齢者、障害者に対する偏見の除去、心のバリアフリーが一体となって初めて実現可能なことだと考えています。

今後も引き続き、関係者がこの研究会を通して、町の現状と実態に真摯に向き合い、率直な議論をすることで、大洗町ならではの地域資源を活用した誰にも優しい個性的なまちづくりの実現に取り組んでいきます。

(問い合わせ先：大洗町町長公室 029-267-5111)